

事例

生産現場を学校で体験！生産者と学校をつなぐ出前授業の取組

千葉県八千代市

千葉県八千代市では、子供たちの「食べ物を大切に作る心・感謝の気持ち」を育むことを目的に、生産者による出前授業「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」を実施しています。授業は小学3年生を対象に、主に社会科で行われ、市内の人参、ネギ、梨等の生産者、酪農家を講師として招いています。毎年、市内のほぼ全ての小学校で出前授業を実施し、市内に住む子供たちが一度は生産者と直接会う食育授業が経験できるように学校への定着を図ってきました。

市内の生産者には、子供たちが地元の農産物について知り、ふだん食べている野菜や牛乳を身近に感じてもらいたい、将来の職業選択の幅を広げてほしいなどの思いで積極的に出前授業に協力していただいています。協力酪農家の一つである加茂牧場では、牛を連れた出前授業を行っています。授業では、始めに、校庭で子供たちが乳搾り体験や子牛と触れ合う体験を行います。その後、加茂さんによる講話があり、牧場現場の様子や酪農を通じた食の循環、命をいただく大切さについて、映像やイラストを使って分かりやすく説明しています。さらに、実際の飼料の匂いを嗅ぐなど、五感を使って酪農について学べる内容になっています。

授業に参加した子供たちからは、「牛に触るとあたたかかった。」、「命の大切さや「いただきます」、「ごちそうさま」の意味が分かった。」、「牧場でお仕事をしてみたい。」等の声が聞かれ、授業後のアンケートでは多くの子供たちが食べ物を大切にしたいと感じていることが分かりました。また、授業を受けた卒業生からは、「農家さんからお話を聞いたことを今でも覚えている。」といった声も聞かれ、子供たちにとって心に残る貴重な経験となっています。さらに、子供たちと一緒に授業を聞いた学級担任、栄養教諭・学校栄養職員にとっても八千代市の農業や酪農について理解を深める機会となっています。

なお、この取組の実施に当たっては、「八千代市健康まちづくりプラン」における食育の目標を実現するために、平成23（2011）年度に、PTA連絡協議会、校長会、学校給食センター、保健体育課、農政課、母子保健課で立ち上げた「やちよ食育ネットワーク協議会」の下、関係部局が連携して学校への出前授業の調整を行ってきました。活動が根付き、学校と生産者の間で直接調整を行えるようになったことから、令和4（2022）年に協議会は解散し、現在は、各学校が主体的に出前授業に取り組んでいます。

今後も学校と生産者のつながりを大切に、出前授業を継続し、子供たちの心に残る食育に取り組んでいきます。



トラックに乗った乳牛で乳搾り体験をする様子



講話の様子